

おとうと

観賞日 2019・9・23

【概要】

制作 1960年 大映 上映時間 98分
原作 幸田文
脚本 水木洋子
監督 市川崑
音楽 芥川也寸志
撮影 宮川一夫
出演 岸恵子 (げん)、川口浩 (碧郎)
田中絹代 (母)、森雅之 (父)



【あらすじ】

主人公のげんの家族は4人。げんは長女で女学校の3年生。父は名の知れた小説家、母はクリスチャンの後妻で手足がリューマチのため不自由。弟の碧郎は学生で不良仲間と付き合いがある。姉弟はよく喧嘩をするが仲良しである。げんは病気がちの義母に代わり一家の家事全般を取り仕切っている。

ある日、碧郎は万引きで補導され退学処分となる。転校先の学校でも生活態度を改めない碧郎はビリヤード、ボート遊びと遊興三昧で、そのつけがげんに回ってくる。いら感募るげんは碧郎と取っ組み合いの大喧嘩をする。

不健全な生活を続ける碧郎はやがて当時は不治の病であった結核を発症する。今のうちにげんと写真を撮っておきたいという碧郎であるが、結核は確実に碧郎の寿命を奪っていく。執筆に多忙な父や足の不自由な母も見舞いに駆けつけて、ばらばらであった家族に初めて一体感が生まれる。そして碧郎にも素直な感情が芽生えてくるが・・・。

幸田文の自伝的同名小説の映画化。キネマ旬報第1位にしてリメイク版も作られた名作。

【解説】

■ポイント

●幸田文 (1904年～1990年)

- ・明治の文豪、幸田露伴の次女として東京に生まれる。
- ・5歳で母、8歳で姉、22歳で弟を失う。
- ・父から文章に関する英才教育を受け、戦時中は父の面倒をみる。
- ・1947年、露伴死亡後に作家活動に入る。

代表作：「父こんなこと」(1949年)、「流れる」「おとうと」(1956年)
娘の青木玉も文筆業

●姉と弟

普通の姉弟とは少し違う姉弟の関係

母親代わり：実母は死亡して、義母は病気がち

恋人代わり：弟にとって自慢の姉。憧れの存在。

●リメイク版

- ・1976年版：監督・山根成之、主演・浅茅陽子
- ・2009年版：監督・山田洋次、主演・吉永小百合

■見どころ

- 弟の死に直面してようやくまとまる家族。家族再生の物語。

